

保育実習の代替としてのオンライン保育実習の効果と課題

森 下 嘉 昭 浅 井 拓 久 也

1 研究背景と課題設定

保育士資格は、指定保育士養成施設（以下、養成校）で所定の単位取得をするか、保育士試験に合格することで取得できる。両者の最も大きな違いは保育実習の有無である。前者は保育実習（保育実習Ⅰ）が必修であり、後者は保育実習がない。保育実習を通して学生は目指す保育士像を明確にしたり今後のキャリア形成について考えたりすることから、学生にとって保育実習を経験する意義は大きい。¹⁾

しかし、新型コロナウイルス感染症の流行によって養成校の保育実習は大きな影響を受けた。緊急事態宣言が2020年4月7日から5月25日、2021年1月8日から3月21日、2021年4月25日から6月20日、2021年7月12日から9月30日、まん延防止等重点措置が2021年4月5日から9月30日に発令されたことで、各養成校では保育実習の中止や延期、実習期間の短縮、学内での模擬保育等、保育実習の経験を代替するための措置を取らざるを得なかった。厚生労働省も「養成施設にあっては、新型コロナウイルス感染症の影響により実習施設の受け入れの中止等により、実習施設の確保が困難である場合には、年度をまたいで実習を行って差し支えないこと。なお、これらの方法によってもなお実習施設の代替が困難である場合、実状を踏まえ実習に代えて演習又は学内実習等を実施することにより、必要な知識及び技能を修得することとして差し支えないこと」というように、新型コロナウイルス感染症の影響下での保育実習はこれまでとは異なる形態で実施することを認めていた。²⁾

こうした事態を踏まえて執筆者の一人は、昨年度、オンライン上で保育実習を経験する試みを実施した。具体的には、養成施設の1年生と2年生、養成施設の教員2名、保育者5名（施設長含む）、保育所運営者3名がスマートフォン、パソコン、タブレットを使用してGoogle Meetに参加することで、オンライン上で保育実習を経験した。³⁾ この試みは実験的な取り組みであったことから参加

者は任意かつ少数とし、120分の実施とした。そこで今年度は当該の経験を発展的に活かし、執筆者の一人が所属する養成校において保育実習の正式な代替として、保育実習に参加する予定であったすべての学生に対してオンライン保育実習を実施した。本研究では、保育実習の代替として実施したオンライン保育実習の効果と課題を明らかにする。現時点では新型コロナウイルス感染症の完全な収束がない状態であることから、通常の保育実習を実施することができず、保育実習の代替措置が必要になることが予想される。その際、オンライン保育実習は選択肢の一つになりえるであろう。そのため、オンライン保育実習の効果と課題を明らかにすることでその方法を改善する示唆を得て、学生がオンライン保育実習からより多くのことを学べるようにすることができるであろう。

2 研究方法

(1) オンライン保育実習の概要

オンライン保育実習は、首都圏の指定保育士養成施設であるX短期大学で実施された。新型コロナウイルス感染症の蔓延によって保育実習Ⅱを実施することができなくなり、保育実習Ⅱの代替として実施された。後述するように、本実習では教員と学生との間で適宜質疑を実施することから、1回の受講者を限定する必要があった。そこで、保育実習Ⅱに参加する学生を60名と70名に分け、オンライン保育実習を1回ずつ（計2回）実施することとした。初回は10月19日に60名、第2回は10月26日に70名が受講した。

オンライン保育実習は、次の通り進めた。9時からおよそ13時（午睡まで）は、学生は現地の認可保育所から保育をリアルタイムで視聴し実際の保育を観察した。学生は自宅からGoogle Meetに参加した。学生と3名の教員がGoogle Meetに参加し、現地の認可保育園には2名の教員が入った。Google Meetを使用した理由は、X短期大学のオンライン授業で日常的に使用されているアプ

リケーションであることから、学生もその使用や扱いに慣れており、オンライン保育実習を円滑に進めるために最適と判断したからである。



写真1 Google Meet上に参加した学生や教員



写真2 保育者による説明

まず開始直後に保育所の概要や目的を説明し、次に施設全体（各クラスや給食室等）の様子を視聴し、最後に19日は5歳児クラス、26日は1歳児クラスを集中的に視聴した。この際、保育者から適宜補足説明があった。リアルタイムで視聴している間に、学生が視聴する保育の流れを分断しないように、おおよそ30分に1回程度の間隔で実際の保育の場面に即した質問を教員が学生に投げかけた。具体的には、以下の通りであった。

○10月19日

質問1 前川先生が挙げた4つの目標とは何であったか。

質問2 園の環境について学びになったこと、気になったことは何か。

質問3 製作の際の保育者の配慮とは何か。

質問4 製作の3つのポイント（描く・切る・貼る）の年長児らしい点はどこか。

質問5 園庭にある固定遊具についての配慮はどのようなところか。

質問6 子どもの移動の際の保育者の配慮は何か。

質問7 食事の場面での衛生面についての配慮は

何か。

質問8 午睡前後の配慮は何か。

○10月26日

質問1 本園ならではのよさは何か。

質問2 製作のねらいは何か。

質問3 製作の際の保育者の声かけの工夫は何か。

質問4 製作の際の汚れへの配慮はどこか。

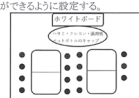
質問5 1つの活動の中で1歳児の集中力を持続するための保育者の配慮とは何か。

質問6 なぜ検食をするのか。

質問7 食事の場面での衛生面や安全面について保育者の工夫や配慮は何か。

質問8 楽しい食事をするための保育者の工夫とは何か。

以上の質問につき、学生は回答を指定された用紙に書きつつ、教員に指名された場合は口頭でも回答した。教員が学生の回答をチャット機能で残し、可視化できるようにした。オンライン保育実習前に当日の保育の計画（月案、週案、日案）を学生に配布し、事前に確認できるようにした。

10月 19日(火) 日案 クラス 5歳児さくら組						
ねらい	・製作したもので友だちと遊ぶことを楽しむ。 ・季節行事を知る。					
活動内容	製作活動・製作遊び・園庭遊び					
準備するもの	モチーフの台紙・ペットボトルのキャップ(1人3個)・ハサミ・クレヨン					
子どもの活動	環境構成・援助活動	配慮事項				
時間	主な活動					
9:00	○順次登園 ○自由遊び					
9:50	○片付け、服装、水分補給、連絡帳(シール貼り)	・自分の好きな遊びを楽しむよう、保育室を広く使うことができるように設定する。 				
10:00	○朝の会					
10:10	○製作活動 ・説明を聞く。 ・配布物(使用するもの)を受け取る。	・1つの机にいる子どもの人数が均等になるようにする。 ・自分で必要なものを考えて、取りに行く事ができるように前に用具を置く場所を作る。 ・子どものつぶやきを見逃さずには、発見や想像を共有できるように声掛けを行う。 ・全員で遊ぶとは、机を1つにして中央に置き、子どもは机の周りに座る。 ・どうしたら高くタワーを積めるかなど子どもの発想を大切にす。	・製作をする際、子どもたちが自由に発想できるように具体的な言葉は使わずに抽象的な表現にとどめていく。 ・見直しを待てる声掛けをする。 ・ハサミを使用するため、十分に注意を怠る。 ・時間を設定して全員が時間内でできるように配慮する。			
10:30	○製作したもので遊ぶ。 ①自分で作ったもので遊ぶ。 ②グループごとで遊ぶ。 ③全員で遊ぶ。(順番)					
11:00	○園庭遊び ・集団遊び ・自由遊び	・子どもたちでの話し合いには、あまり口を出さずに見守り、必要なときのみ介入する。	・園庭に行く前に排塵を促す。			
11:40	○片付け、入室 ○手洗い、うがい、着替え ①検食準備をする。		・階段には注意する。 ・人数確認を忘れずに行う。			
12:00	○給食 ○食べ終わったから歯磨きをして静かに遊ぶ。					
13:00	○午睡準備 ・午睡をする。					
評価・反省	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>園長</td> <td>主任</td> <td>担任</td> </tr> </table>			園長	主任	担任
園長	主任	担任				

資料1 日案(2回目)

なお、子どもの人権への配慮から排泄や衣類の着脱の場面は学生が視聴できないように配慮した。

14時から15時は午前の振り返りと実際の保育を担当した保育者や主任保育者との質疑を行った。質疑では保育の意図や工夫、配慮等の保育実習時に学生が感じるような事項について様々な質問があり、担当保育者や主任保育者から回答があった。



写真3 保育者との質疑応答

15時から16時はグループになって視聴した保育について議論した。16時から17時はオンライン保育実習の学びのまとめを各自で行った。

(2) 質問項目と分析方法

調査対象者はオンライン保育実習の受講者130名とした。質問項目は、オンライン保育実習が本来なら保育所で行う保育実習の目的を達成できているかを明らかにするために、厚生労働省による「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」における保育実習Ⅰ、Ⅱの内容を踏まえて作成した。また、オンライン保育実習前後の学生の意識の違いを比較するために、オンライン保育実習前後で同じ質問項目を設定した(表1の項目1から項目19)。これらの質問項目に対して、「とても学べる」、「まあ学べる」、「どちらでもない」、「あまり学べない」、「まったく学べない」の5件法で回答を求めた。

また、オンライン保育実習の期待(満足)度や保育所での保育実習と比較するための質問項目を用意した(表1の質問項目20から質問項目22)。これらに対して質問項目20では「とても期待している」、「まあ期待している」、「どちらでもない」、「あまり期待していない」、「まったく期待していない」、質問項目21では「とてもしたかった」、「どちらかと言えばしたかった」、「どちらでもない」、「どちらかと言えばしたくなかった」、「まったくし

たくなかった」、質問項目22では「とても必要だと思う」、「どちらかと言えば必要だと思う」、「どちらでもない」、「どちらかと言えば必要ないと思う」、「まったく必要ないと思う」という5件法で回答を求めた。

さらに、選択式の質問項目に加えて自由記述式の質問項目を用意した(表1の質問項目23から質問項目26)。オンライン保育実習前では、「オンライン実習で期待することは何ですか」、「オンライン実習で不安なことは何ですか」、オンライン保育実習後には「オンライン実習で満足したことは何ですか」、「オンライン実習を受講してよくなったことは何ですか」について回答を求めた。

表1 質問項目

質問項目
1 オンライン実習で「保育所の社会的役割と責任」は
2 オンライン実習で「保育所の生活の流れや展開の把握」は
3 オンライン実習で「保育所における子どもの生活の姿」は
4 オンライン実習で「保育所と関係機関や地域社会との連携・協働」は
5 オンライン実習で「保育士子どもへの援助や関わり」は
6 オンライン実習で「保育士間の役割分担や連携・協働」は
7 オンライン実習で「保育士の職業倫理」は
8 オンライン実習で「保育所保育指針に基づく保育の展開」は
9 オンライン実習で「指導計画に対する理解や作成方法」は
10 オンライン実習で「子どもの観察とその記録をすること」は
11 オンライン実習で「記録に基づく省察や自己評価」は
12 オンライン実習で「子どもの発達過程に応じた保育内容」は
13 オンライン実習で「子どもの発達過程の理解」は
14 オンライン実習で「子どもの生活や遊びの保育環境」は
15 オンライン実習で「子どもの健康や安全を守る保育環境」は
16 オンライン実習で「養護と教育が一体となって行われる保育」は
17 オンライン実習で「入所している保護者に対する子育て支援」は
18 オンライン実習で「地域の保護者等に対する子育て支援」は
19 オンライン実習で「保育者を目指すうえでの自己の課題を明確にすること」は
20 オンライン実習にどの程度期待(事後は満足)していますか
21 保育所で実際に実習をしたかったですか
22 保育者になるためには実際に保育所での実習が必要だと思いますか
23 オンライン実習で期待することは何ですか(事前)
24 オンライン実習で不安なことは何ですか(事前)
25 オンライン実習で満足したことは何ですか(事後)
26 オンライン実習を受講してよくなったことは何ですか(事後)

以上の質問項目に対してオンライン保育実習前後にGoogle Form（スマートフォン等を使用してオンライン上で質問に回答するアプリケーション）を通して回答を求めた。本調査は保育実習Ⅱの代替の一部として実施したことから学生の学びを確認する必要があり、そのため記名式で回答を得た。

質問項目1から質問項目22については、得られた回答に5から1点を割り当て（例えば、「とても学べる」は5、「まあ学べる」は4、「どちらでもない」は3、「あまり学べない」は2、「まったく学べない」は1）、Wilcoxonの符号付き順位検定を行った。⁴⁾ 質問項目23から質問項目26についてはKH Coder v.3を用いて各記述から特徴語を抽出した。⁵⁾ この際、名詞に限定して抽出を行った。なぜなら、「思う」、「考えた」のような動詞とは異なり、名詞は特定のテーマを表現していることが多く、自由記述式の各回答の特徴を抽出しやすいと思われるからである。また、本研究は自由記述における表現の多様性を検討するものではないことから、「こども」や「子供」を「子ども」、「保育者」を「保育士」、「保育所」を「保育園」のように、同じ意味の言葉を統一した表現に置換して分析した。

（3）倫理的配慮

倫理的配慮として、調査対象者が回答する前に、調査目的と内容、回答は学術研究の目的でのみ使用されること、回答の内容と授業の成績は無関係であること、自由意志であること、回答は記名式で行うこと、Google Formのデータは一定期間経過後に破棄すること等を口頭で説明し、回答の提出をもって調査対象者の同意を得たとした。

本研究は秋草学園短期大学研究倫理審査委員会の承認を得て行った（承認番号2020-15）。

3 結果

表2は質問項目1から質問項目22についてWilcoxonの符号付き順位検定を行った結果を示したものである。

Wilcoxonの符号付き順位検定を行った結果、オンライン保育実習前後で有意差が認められた質問項目は、質問項目4「オンライン実習で「保育所と関係機関や地域社会との連携・協働」は」、質問項目5「オンライン実習で「保育士の子どもへの援助や関わり」は」、質問項目6「オンライン実習

で「保育士間の役割分担や連携・協働」は」、質問項目15「オンライン実習で「子どもの健康や安全を守る保育環境」は」、質問項目20「オンライン実習にどの程度期待（事後は満足）していますか」であった。質問項目4「オンライン実習で「保育所と関係機関や地域社会との連携・協働」は」はオンライン保育実習後より前の方が学生の評価（学びになるという評価）が高かった。その他の4つの質問項目は、オンライン保育実習後の方が学生の評価が高かった。

表3は質問項目23から質問項目26について自由記述の回答から特徴的な言葉（特徴語）を抽出した結果を示したものである。

表3によると、「保育」、「実習」、「保育園」、「オンライン」、「質問」、「通信」、「電波」、「部分」、「体験」のように、質問項目23から質問項目26で共通あるいは類似する特徴語が出現していた。一方で、質問項目23「オンライン実習で期待することは何ですか」（事前・期待）では「期待」、「様子」、「観察」、「関わり」、質問項目24「オンライン実習で不安なことは何ですか」（事前・不安）では「理解」、「映像」、「通信」、「心配」、「経験」、オンライン保育実習後には質問項目25「オンライン実習で満足したことは何ですか」（事後・満足）では「自分」、「意見」、「説明」、「先生」等、質問項目26「オンライン実習を受講してよくなかったことは何ですか」（事後・不満）では「実践」、「画面」、「声」、「表情」、「室外」、「場面」、「カメラ」が他の項目には見られない特徴語として出現していた。

4 議論

（1）オンライン保育実習の効果

Wilcoxonの符号付き順位検定と特徴語の抽出結果を踏まえると、オンライン保育実習には一定の効果があったことがわかる。総合的な満足度を問う質問項目20「オンライン実習にどの程度期待（事後は満足）していますか」については、オンライン保育実習前より後の方が学生の評価が高かった。この背景として具体的に2つの点が挙げられるであろう。

まず、オンライン保育実習に参加した他の学生の意見を確認したり教員や保育者へ質問したりすることが容易であったことである。表3の「事後・満足」では「自分」、「意見」、「質問」が抽出されていた。実際の記述（一部、以下同）は、「自分で

表2 Wilcoxonの符号付き順位検定の結果

質問項目	事前		事後		Wilcoxon の符号付き 順位検定(p)
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
1 オンライン実習で「保育所の社会的役割と責任」は	3.77	.867	3.80	.907	.710
2 オンライン実習で「保育所の生活の流れや展開の把握」は	4.14	.809	4.29	.707	.122
3 オンライン実習で「保育所における子どもの生活の姿」は	3.95	.852	3.95	.855	.822
4 オンライン実習で「保育所と関係機関や地域社会との連携・協働」は	3.11	1.112	2.79	1.170	.027*
5 オンライン実習で「保育士の子どもへの援助や関わり」は	3.97	.807	4.28	.636	.000***
6 オンライン実習で「保育士間の役割分担や連携・協働」は	3.46	1.041	4.11	.844	.000***
7 オンライン実習で「保育士の職業倫理」は	3.62	.997	3.82	.907	.620
8 オンライン実習で「保育所保育指針に基づく保育の展開」は	3.95	.684	4.00	.823	.602
9 オンライン実習で「指導計画に対する理解や作成方法」は	3.79	.985	3.87	1.048	.517
10 オンライン実習で「子どもの観察とその記録をすること」は	3.89	.951	3.87	1.018	.845
11 オンライン実習で「記録に基づく省察や自己評価」は	3.53	1.041	3.47	1.069	.649
12 オンライン実習で「子どもの発達過程に応じた保育内容」は	3.94	.776	4.08	.804	.124
13 オンライン実習で「子どもの発達過程の理解」は	3.65	.913	3.84	.991	.144
14 オンライン実習で「子どもの生活や遊びの保育環境」は	4.05	.721	4.14	.802	.315
15 オンライン実習で「子どもの健康や安全を守る保育環境」は	3.97	.778	4.23	.686	.005**
16 オンライン実習で「養護と教育が一体となって行われる保育」は	3.78	.810	3.80	.932	.982
17 オンライン実習で「入所している保護者に対する子育て支援」は	2.82	1.140	2.73	1.247	.643
18 オンライン実習で「地域の保護者等に対する子育て支援」は	2.70	1.108	2.48	1.211	.146
19 オンライン実習で「保育者を目指すうえでの自己の課題を明確にすること」は	3.49	1.084	3.50	1.139	.643
20 オンライン実習にどの程度期待(事後は満足)していますか	3.77	.901	4.13	.738	.001**
21 保育所で実際に実習をしたかったですか	3.80	1.078	3.83	1.001	.768
22 保育者になるためには実際に保育所での実習が必要だと思いますか	4.69	.480	4.66	.490	.600

*p < .05, **p < .01, ***p < .001

表3 質問項目23から質問項目26の特徴語

事前・期待 (質問項目23)	事前・不安 (質問項目24)	事後・満足 (質問項目25)	事後・不満 (質問項目26)
保育 .220	オンライン.121	保育 .257	部分 .088
期待 .200	現場 .083	実習 .214	実践 .076
実習 .188	質問 .076	自分 .185	画面 .074
保育園 .156	理解 .064	意見 .145	声 .069
オンライン.125	映像 .049	保育園 .142	表情 .051
様子 .121	通信 .047	オンライン.133	電波 .050
観察 .086	電波 .044	質問 .116	通信 .044
質問 .078	心配 .041	説明 .092	体験 .043
現場 .075	経験 .040	先生 .078	場面 .042
関わり .049	体験 .035	部分 .077	カメラ .037

は気づけなかった部分を皆の意見を聞いて気づけたことが良かったです。」「実際に現場に行って実習をすると、メモをとったり様々なこと(原文ママ)平等に関われなかったり自分の考えからしか質問できないけど、今回は60名ほどで実習をしたので様々な意見から保育者に答えていただいたり遊びや生活の様々な場面を平等に見ることができたことが良かったです。」「様々な視点から保育を見ることができてよかったです。また、たくさんの人の意見を聞くことができたことで、自分では思いつかなかった考えと出会うこともできました。」「他の人の意見や、たくさん質問等があったため実習の時には考えられなかったことを考えた

り、他の人の意見で新たな意見を聞いてよかったです。」「自分の考えだけではなく他の人の意見も取り入れながら実習に参加できたこと。」「保育者からの説明があったり、実際に見ていて疑問があった時に保育者の方に質問ができる環境があり、保育者の役割について細かく学ぶことができました。」「30分おきの質問によって、自分で考えることができた。」「学びたいことのみを効率よく学ぶことができたと思います。また、わざわざ保育所の先生に質疑応答の時間を取っていただいたので質問したいことを聞き逃すことが無かったと感じました。」とあった。

保育所等で実施する保育実習では同じ実習生や教員はもちろんのこと、多忙な保育者に質問するタイミングに悩む学生も多い。様々な理由から質問をすること自体に躊躇する学生もいよう。しかし、オンライン保育実習では、同じ空間に他の実習生、教員、保育者がいることで、自分の意見を表明したり質問したりすることが容易になったものと思われる。特に、同じ空間に友人や教員がいることは学生が意見表明や質問をする心理的負担を減少させたものと思われる。

次に、オンライン保育実習中に教員や保育者の補足説明や追加説明があったことである。表3の「事後・満足」では「説明」、「先生」が抽出されていた。実際の記述は、「自分が思っていたことだけでなく、ほかの人の意見を聞いたり、先生からの解説が聞けたりできて学びが広がった。」「実際の実習では子どもと関わっていて見れない保育士の動きも今回はオンラインということもあったのでゆっくりと見ることが出来ました。また、自分の視点だけではなく質問なども聞けたり、実際に先生方が質問に答えて下さったのでより多く学ぶことが出来ました。」「先生方の補足説明などをこまめに受けながらできたので、細かい部分も知ることができたことがよかったです。」「もし中止ではなく実際に実習に行ったら、今日のように先生方や保育者の方々から詳しく解説がなく自分の気付きがなければ知ることのできなかつたことや他の学生からの視点があつたおかげで自分の知識が増えたり疑問が多く出てきて共有することができたので学びにもつながり良かったと思いました。」「先生の解説付きで保育を見ることができたこと。自分の考えだけではなく他の人の意見も取り入れながら実習に参加できたこと。先生なら

ではの視点で保育を見ることができたこと。」「オンライン実習では、一日じゃ学べないことをよく知る人が説明してくれてより保育ではどういった気持ちで取り組んで行くべきなのか冷静にメモをとりながら知ることができ、余裕を持って保育者の方の意見も聞けました。」「実際に行くと最初は、緊張して周りが見えなくなるためそれがなく肩の力を抜いて全体を見られたことと一つ一つ説明して言ってくれているので分からない事がすぐ分かることが出来る。」「オンライン実習を受けて、画面上だと保育の様子を見ることや理解することは難しいと始めは思っていました先生方がそれぞれの活動ごとに詳しく説明して下さったので理解しやすかったです。」とあった。

保育所等で実際に実習を行う場合は、保育中に保育者が自分の保育や子どもの様子について補足説明することは多くあることではない。言うまでもなく、保育実習中に常駐しているわけではない教員が保育の意図や着目すべきところを指摘することもない。しかし、オンライン保育実習では保育者や教員が補足説明したり、保育の流れに即して教員が適宜質問を学生に投げかけたりすることによって、学生は学習⁶⁾すべき箇所を明確にすることができ、効率的に学ぶことができたのではないだろうか。表2にあるように、質問項目5「オンライン実習で「保育士の子どもへの援助や関わり」は」、質問項目6「オンライン実習で「保育士間の役割分担や連携・協働」は」、質問項目15「オンライン実習で「子どもの健康や安全を守る保育環境」は」についてはオンライン保育実習後の方が学生の評価が高かった。この背景には、教員が30分に1回程度の間隔で実際の保育の場面に即して学生に問いかけた質問と関係していることがあるものと思われる。

(2) オンライン保育実習の課題

一方で、オンライン保育実習の課題も2つ明らかとなった。まず、自分自身で保育を行う経験をすることができないことである。表3の「事後・不安」では「実践」や「体験」が抽出されていた。実際の記述は「実践ができなく、自分の実力が分からないのと教育実習で学んだことを生かせなかつた。」「学びや気づきから実践できなかつたこと。学びや気づきをもとに部分実習や責任実習をして学ぶことや気づくこと、そして実践してその

反省からまた子供や保育者の動きを見ると違った視点などから新たな学びなどが発見できたのが過去の実習でかなりあったのでそれができなかったというのは残念だった。」「実際に子どもと関わらなかったのも、今までや今日学んだことを実践できるか。」「実践をすることができないため、子どもとのかかわりや保育の仕方について自分はこれができるんだ、という実感を持つことができないのが残念だなと思いました。」「実際に保育の現場で実践できないので、自分が今後何をすべきなのか、何が足りていないのか明確に知ることができなかった。」「実際に子どもと関わることができなかったこと。自分が実践することができないことや実践してみたものの評価が得られなかったこと。」「自分で実際に関わって、失敗したり成功したりするような体験から学べるということというのが実習の意味でもあると考えているので、その点はオンライン実習からは学ぶことができないと感じました。」とあった。

こうした不安、不満は表2の「事前・不安」において特徴語として抽出された「現場」、「心配」、「経験」、「体験」にも共通していた。実際の記述は「実際に現場に行くと実際に子どもと関わったり保育者の方と関わる事ができないため、保育中の子どもへの声掛けについてや、保育中に先生がなぜこのような声掛けをしたのかに気が付き質問できるか不安です。」「実際におこなうわけではないので本当に学べているのか心配。」「ただ見るだけではいけないけど実際に自分が経験を出来ないのこれから就職したときに技術面が少し不安です。」「オンライン上では自分で考えていた観察したい部分や体験したいことができないため、不足している保育知識を身につけることができるか不安です。」とあった。

オンライン保育実習では学生が実際に保育を行わないことから、保育の技術が身につけているのか、子どもや保育者からの学びを得ることができるかのように、学生が保育の経験や体験の不足を心配したり不満に感じたりすることは当然であろう。この点は、表2の「事前・不安」と「事後・不満」の双方に共通して見られた。今回のオンライン保育実習では教員から適宜質問があったり、保育者や教員から補足説明があったり、グループワークがあったりと、単に保育を視聴しているという受動的な学習ではなかったものの、それでも

学生自身が保育をするのではないということから、保育の経験不足に対する不安や不満が表れているのであろう。実験的に実施したオンライン保育実習に関する浅井・森下(2021)の研究でも、オンライン保育実習の課題として「実際に自分ができるかイメージがわからない」というカテゴリが課題の一つとして抽出されていた。³⁾

次に、オンライン保育実習で使用するデジタルデバイスの限界である。表3の「事後・不安」では「画面」、「声」、「表情」、「場面」が抽出されていた。実際の記述は「自分が気になった場面で画面が切り替わってしまうことで、その後どのようなことをしたのか、どのように対処したのか見れなかったことです。」「画面で写す子どもしか見ることができないので、一瞬映った子どもの様子をもう少し見たいと思うことがあったので、そこは実際に実習をして実際に関わることが大切だと思います。」「子どもたちの声が音割れしていたり、保育士の声が聞こえづらかったり、聞きたいところなのに聞こえないとかがあったこと。」「子どもたちの一人ひとりの声が聞き取りにくく、どんな気持ちで活動をしているのかを想像することが難しかったです。」「細かい子どもの様子や表情を見にくかった。」「子どもの表情や子どもに対する声かけをしたときに反応など見れる機会がどうしても少なくなってしまったのでその声かけでどのような変化があるのかなど確認することがしづらかったことが残念だったかなと思います。」「自分が所々で気になった子どもの表情や反応を近くで見ることができなかったため、どのような様子だったかが気になりました。また、散歩等の外出時の観察ができなかったため、その時の保育者の配慮や援助、子どもの様子が気になりました。」「その場面で写っている部分しか見えていなかったため、子どもたちの生活の流れを理解するのが難しかったです。」とあった。

また、表3では「電波」、「通信」、「カメラ」が抽出されていた。実際の記述は「電波が良くなく、言葉が聞き取れないこと。」「オンライン実習をしているときにパソコンで最初はやっていたが電波障害が発生して途中で接続が切れてしまいスマホに切り替えをしている間の話が全て飛んでしまっただけで聞き逃しが多くなってしまったこと。」「通信の不具合が生じてしまって保育の流れの理解がわかりにくかった。」「カメラに映ってる子どもの様子

しか分からないから全体を見渡すことが出来ないし、引きで全体の様子を映しても具体的に何をやっているのかわからなかった。」「対面とは違ってカメラの中でしか保育を見ることが出来ないの自分で気がなっているところがあった際に見ることが出来るかどうか。」とあった。

オンライン保育実習ではカメラ操作を学生が自由にできないことから、自分が観察したい箇所を焦点化することはできない。また、カメラによって撮影された箇所以外は観察することができないことから、観察できる箇所とできない箇所のつながりや関係性を理解することも難しいであろう。さらに、オンライン保育実習で使用するデジタルデバイスに対する不安もあろう。学生が使用するデジタルデバイスは様々であり、通信環境が制限的な学生もいるであろう。⁷⁾ こうした状態でオンライン保育実習に参加するというのは学生にとって大きな不安となっていよう。そのため、オンライン保育実習前後でこうした不安が表れていたものと思われる。

5 まとめと今後の課題

本研究では、保育実習の代替として実施したオンライン保育実習の効果と課題を明らかにすることを目指した。オンライン保育実習の効果として、他の学生、教員、保育者に質問したり自分の意見を表明したりしやすいこと、教員や保育者が保育の流れに即して適宜補足説明をすることで学習すべき事項が明確化されることで学習効果を高めることができることが明らかとなった。一方でオンライン保育実習の課題として、自分自身で保育を経験することができないことから子どもとの関わり方をはじめとして様々な保育の技術が身についたか否か不安であること、自分が特に観察したい箇所を観察できないことや制限的な通信環境のようなオンライン保育実習で使用するデジタルデバイスの限界があることが明らかとなった。

以上を踏まえると、オンライン保育実習はオンラインによる実施ならではの利点もあるものの、実際の保育所等で実施する保育実習の完全な代替とすることは困難であると言えよう。コロナウイルス感染症のような事態が生じたことによって保育所で保育実習が実施できない場合のやむを得ない選択肢の一つとして成立するものであろう。

しかし、ここまで明らかとなったことからすれ

ば、オンライン保育実習は保育実習の代替とはならなくても、保育実習前に実施される保育実習指導の一部として活用することができるのではないだろうか。保育原理や造形表現等の5領域に関する様々な教科と保育実習を接続する架け橋としてオンライン保育実習を活用するということである。オンライン保育実習では、他の学生の質問や意見を多数聞くことができる。保育者や教員から保育実習で学ぶべきことを実際の保育に即して指摘されることで、保育実習における学習対象を明確化、自覚化することができる。あるいは、自分自身が保育実習で学ぶべき事項を明確する際の手蔓になる。保育実習前にこれらを学ぶことは実際に自分が保育所で実習をする際に大いに役立つものである。

また、オンライン保育実習の課題として、実際に保育を経験できないことから技術の習得に関する不安があった。また、自分が観察したり焦点化したりすることができない懸念もあった。しかし、オンライン保育実習でこうした限界を感じ、不安を抱くからこそ保育所で実施する保育実習に積極的、意欲的に取り組むことができるのではないだろうか。「事後・不満」の記述の中には、「実際に体験したり子どもと関わってみなくては発見できない部分もあるため、実際に行う保育所実習の大切さが改めて実感しました。」とあった。「改めて」という言葉に表されているように、オンライン保育実習の限界を感じることで、いっそう保育所での保育実習の重要性を理解することができるのではないだろうか。

オンライン保育実習は保育実習を実施することができない場合のやむを得ない措置の一つとしてだけでなく、学生が保育実習における課題意識を明確にし、そこからの学びを最大化するために保育実習指導の一部として実施することで、いっそう効果的なものになるものと思われる。

本研究で得られた知見は、オンライン保育実習の概要で説明した方法による効果と課題である。それゆえに、本研究とは別の方法でオンライン保育実習を実施した場合は異なる結果になることが予想される。今後、様々な方法を試行し、実践例を累積することでオンライン保育実習の効果と課題をいっそう明確にし、保育実習の代替あるいは保育実習の効果を高める予備的な実習としてのあり方を検討していきたい。

引用・参考文献

- 1) 浅井拓久也 (2020)「保育士像と保育士としての職業選択の関係—保育実習 I を通して形成される学生の保育士像に着目して—」『秋草学園短期大学紀要』第36号、pp.38-50.
- 2) 厚生労働省 (2020)「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う指定保育士養成施設の対応について」.
- 3) 浅井拓久也・森下嘉昭 (2021)「指定保育士養成施設におけるオンライン実習の可能性と課題に関する研究—オープンコーディングによる探索的な分析を通して—」『山口芸術短期大学研究紀要』第53巻、pp.123-128.
- 4) Wilcoxonの符号付き順位検定とは、正規分布を想定しないノンパラメトリック検定の一種である。対応のある2群のデータで中央値を検討する手法である。本研究では同一の調査対象者に対してオンライン保育実習前後の回答の変化に着目すること、また当該の回答は正規分布を想定できなかつたことからWilcoxonの符号付き順位検定を採用した。
- 5) KH Coderを使用した理由は、社会科学において自由記述を定量的に分析する際に高頻度で使用されることからである。詳しくは、樋口耕一『社会調査のための計量テキスト分析 - 内容分析の継承と発展を目指して【第2版】KH Coder オフィシャルブック』(2020年、ナカニシヤ出版)を参照のこと。
- 6) 本稿では「学修」ではなく「学習」と表記する。
- 7) オンラインを活用した授業を行うにあたっては、養成校は学生に最大限の配慮をしているものと思われる。例えば、宇都宮大学の「メディア講義を作成するにあたっての注意事項」では、「学生へのネット環境アンケートが6割集まった段階で、データ通信量制限のある学生は14%に達しました。このため、最初の2～3回の講義は「PDF圧縮音声ファイル(mp3) c-learningの小テストやレポート提出」としてください。」「たとえば、一つの講義が20MBとしても、週に20講義をとれば400MB、1カ月4週間で1.6GBになります。データ通信量制限の学生はギガ不足に陥り、ファイルのダウンロードが極端に遅くなり、動画は止まります。」と、学生の制限的な通信

環境に配慮するよう示されている。

付記

オンライン保育実習では様々な方に協力を賜った。記してお礼申し上げる。

